



たかむく 2025

明章小学校
学校だより 9号
令和7年9月12日

書く力をつける取り組み

例年4月に2～5年生は、坂井市学力調査を受検しています。国語と算数の2教科を行っているのですが、国語の結果がよくありませんでした。領域的には、「話すこと・書くこと」の正解率が低かったです。この結果を踏まえて、2学期には書く力と話す力がつくような取り組みを行っていきます。

それらの力をつけるためには、①伝えたいことをはっきりさせる、②相手に伝わりやすく説明の工夫をする、③使える言葉の量を増やすなどの取り組みが考えられます。

子ども自身が感じたことや、なぜそう思ったのかななどを素直に表現できるようにすることも大切です。教室がなんでも言いあえる雰囲気になっているか、子どもたちの人間関係にも気を配りながら取り組んでいきます。



これからの時代に必要な力とは

これまでの書く力といえば、紙と鉛筆を使って文章を書いて鍛えていました。しかし、新しいタブレット端末が導入され、文字の入力はスタイラスペンでひらがなを手書きで入力し、漢字に変換できるようになりました。さらに、音声による文字入力にも対応しています。これまでと「書く」という行為が変わっていくかもしれません。

さらに、AIの進化により、自分で文章を考える必要もなくなってきました。どんな文章を書いてほしいか、どのようにまとめてほしいかをAIに具体的に指示すれば、体裁の整った文章を出力してくれます。まだしばらく授業で使うことはありませんが、数年後には今と違った学習風景が見られることでしょう。

しかし、これまでと同様必要とされる力もあります。例えば、文章の内容を正確に読み取り、理解する力である読解力は、「AIの回答には間違いが含まれています」と但し書きがあるように、情報の真偽を確かめるためにますます重要になってきます。また、算数の学習に取り組むことによって身につく、論理的に考える力も、なぜ自分はそう考えるのか相手を納得させるために必要です。これらはあらゆる学習の土台となる力として、身につくように努力する必要があります。

そして、テストでは測れない非認知能力と呼ばれる力も大切です。非認知能力はいくつかありますが、生成AIに小学生に特に大切なものを3つ挙げてもらいました。①自己肯定感、②やりぬく力、③共感力だそうです。

「やればできる」と目標に向かって粘り強く取り組み、困難に直面してもあきらめずに最後までやり続けて、やった結果をお互いに理解し合ってみんなが成長を実感できる、そんな風に子どもたちを育てていけるように努力しなければいけないと

思います。

「自己肯定感」は、成功体験を積み重ね、取り組みの過程を認めることで高まります。「やりぬく力」は、自分の興味のあることに挑戦し、最後までやり遂げる経験を積むことで身につきます。失敗も次への挑戦に活かそうとする前向きな姿勢が大切です。「共感力」は相手の気持ちを想像することで身につきます。本を読んで登場人物の気持ちや行動について思いをはせると身につく力です。

そのほかにも、感情をコントロールする力など子どもたちに身につけたいと思う力はたくさんあります。自然と身につく場合もありますし、意図したからといって身につかない場合もあります。試行錯誤を繰り返しながら、それぞれの子どもたちにこれからの時代に必要な力がつくように努力していきますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

お知らせとお願い

■ 新しくなったタブレット端末を子どもたちが持ち帰って、家庭での学習に使用します。どんな端末が入ったのかご覧いただければと思います。使用にあたっては、学習のために使うものであることをご理解いただき、故障の原因となる使い方をしないようお子さんの学習の様子を見てください。

なお、21:00～6:00の時間帯は、インターネットへの接続ができないように制限をかけています。ミライシードなどインターネット接続が必要なアプリは使えません。

■ 新型コロナウイルスの感染者が増加しているそうです。また、百日せきの流行も続いているようです。うがい、手洗いなど感染対策をお願いします。